

住まいと暮らしをデザインする

SUMAU

CONTENTS

January 2012 - vol.8

The Premium Brand Identity

SUMAU SPECIAL

世界のデザイン空間

SUMAU デザインセレクション

心地よいインテリアをつくる 鈴木ふじ恵

THE MODEL

SUMAU INFORMATION

Point of View

バックナンバー

Full Screen 

世界のデザイン空間 08

三里屯SOHO
Sanlitun SOHO

(中国)

100m級の9本のタワーが作り出す
超高層の「塔の村」

Photo: 隈研吾建築都市設計事務所

住まいと暮らしをデザインする

SUMAU

CONTENTS

January 2012 - vol.8

The Premium Brand Identity

SUMAU SPECIAL

世界のデザイン空間

SUMAU デザインセレクション

心地よいインテリアをつくる 鈴木ふじ恵

THE MODEL

SUMAU INFORMATION

Point of View

バックナンバー

Full Screen 複数の塔が群れて立ち並んで調和
塔の隙間には谷状のスペースが連続する

首都、北京の大使館など駐在公館が集まるエリア、三里屯（さんりんとん）。そうした地理的条件もあってか、以前から外国人客向けのバーが集中する歓楽街として知られていたが、他のエリア同様、オリンピックを機に大きく変貌を遂げ、今では巨大な商業コンプレックスが続々と誕生しつつある一大商業エリアとなっている。その三里屯にある言わば「隈研吾建築ギャラリー」に新たに加わったのが、三里屯SOHOである。

三里屯SOHOの通りを隔てた北側には、ファッションモールの先鋒である三里屯Villageがある。そのサウスコーナーとイベントホール、隣接しているブティックホテルのオポジットハウスは、すべて氏の設計になるものである。そしてその最新作が三里屯SOHOということになる。こちらも三里屯Village同様に巨大な複合施設ではあるが、決定的に違うのはオフィスやレジデンシャルエリアを擁する高層ビルを擁することだろう。

隈研吾氏自身の言葉によれば、「群れて建ち並ぶ」これらのビルは、スクエアな高層ビル然としたそれではない。コーナーをもたず緩やかに連続する曲面が表面を覆う、アメーバのように有機的な断面をもつ高さ100メートルの高層ビル9棟は、敷地内に整然とはいえないランダムさで建ち並んでいる。それを「超高層の『村』のような風景」と建築家は表現した。



http://www.sumau.com

住まいと暮らしをデザインする

SUMAU

CONTENTS

January 2012 - vol.8

The Premium Brand Identity

SUMAU SPECIAL

世界のデザイン空間

SUMAU デザインセレクション

心地よいインテリアをつくる 鈴木ふじ恵

THE MODEL

SUMAU INFORMATION

Point of View

バックナンバー

Full Screen 



住まいと暮らしをデザインする

SUMAU

CONTENTS

January 2012 - vol.8

The Premium Brand Identity

SUMAU SPECIAL

世界のデザイン空間

SUMAU デザインセレクション

心地よいインテリアをつくる 鈴木ふじ恵

THE MODEL

SUMAU INFORMATION

Point of View

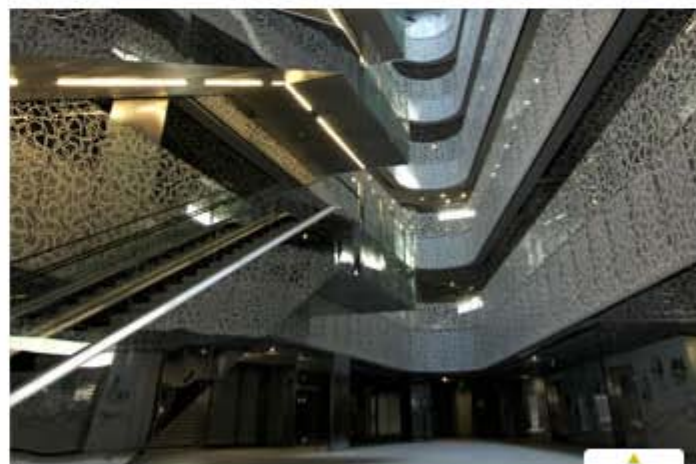
バックナンバー

Full Screen モザイク状のファサードの可能性から
アジア的平和なデザインが出現する

この「塔の村」の上空から地上へと視線を向けると、高層ビルの下層階では2棟が1つに繋がっている。アトリウムによって結びつけられたそれら商業エリアスペースは、敷地を埋めるように配され、その中央にはオープンエアの広場が、さらにその中心には川が流れている。この光景はまるでコロラド川が悠久の時間をかけて大地に谷間を穿った、グランドキャニオンのようだ。そう言えば、ビルのファサードは地層に見えなくもない。

ファサードのモザイク状のパターンは三里屯Villageでも用いられているが、今回はさらに洗練を加えたかたちで取り入れられた。周囲のビルを抑えめに彩り、その中心に位置するビルをオレンジ色で包んだのも鮮やかだ。そのファサードで高層ビルの表面に「粒子感」を与え、ひいては「アジア的平和」を出現させることを目指したと隈研吾氏は語っている。

高層ビルを含む巨大商業施設は、1本の抜きん出て高い塔にアトリウムの組み合わせというスタイルが多い。それを「西洋的リーダーシップ型」とすれば、三里屯SOHOはそれに対する批評なのだ。それぞれ似通ってはいるが、かといってまったく同一でもない9本の塔からは、確かに共同体的な連帯感が感じられる。そんな「平和で寛容な集団のあり方」を中国に現出させたこと自体、氏の「批評」と取っては勘繰りが過ぎるだろうか。



住まいと暮らしをデザインする

SUMAU

CONTENTS

January 2012 - vol.8

The Premium Brand Identity

SUMAU SPECIAL

世界のデザイン空間

SUMAU デザインセレクション

心地よいインテリアをつくる 鈴木ふじ恵

THE MODEL

SUMAU INFORMATION

Point of View

バックナンバー

Full Screen 三里屯SOHO
Sanlitun SOHO

北京や上海、広州などで大型プロジェクトを次々に成功させているSOHO中国グループが手がける、建外SOHO、朝外SOHOなどに続く北京での最新大型商業施設、三里屯SOHO。敷地内中央にオープンな空間を取り、その周囲に高層ビルを配置したレイアウトで“谷”とも称されている。70基のエレベーター、59基のエスカレーターが建物の隅々まで張り巡らされ、低層階の商業エリアから高層階のオフィス、居住エリアを結んでいる。

<http://www.sohosanjitun.com/>

隈研吾 くまけんご

1954年、神奈川県横浜市生まれ。1979年、東京大学大学院工学部建築学科建築意匠専攻修士課程修了。日本設計、戸田建設、コロンビア大学建築・都市計画学科客員研究員を経て、1987年、空間研究所設立。1990年、隈研吾建築都市設計事務所設立し現在に至る。2008年、KUMA & ASSOCIATES EUROPE設立。2010年、毎日芸術賞受賞。現在、東京大学大学院教授も務める。世界を舞台に活躍する日本を代表する建築家のひとり。

<http://kkaa.co.jp/>

